

愛知県政150周年特別号

つちおと



No.142 2022 総会号
愛知県建築技術研究会

CONTENTS



目次

1	第55回定時総会	1
2	特別講演 「2022年度建築住宅行政」について	愛知県建築局長 成田清康 12
3	中小建設業建築技術者研修会	安全教育研修委員会 18
4	特集 愛知県150年の歩み	20
5	県政150周年記念 「わたしの大好き！な愛知」写真募集について	24
6	「愛知まちなみ建築賞」作品募集について	25
7	応急危険度判定士講習会のご案内	26

1

第55回定時総会



第55回定時総会は、去る6月10日(金)午後3時45分から(一社)名古屋銀行協会5階大ホールにて開催されました。初めに、愛知県建築局長成田清康様から、「2022年度建築住宅行政」についての特別講演がありました。

続いて、定時総会が榊原副会長の総合司会で始まり、5月に就任された高柳新会長は、「重責を感じているが、皆さんの協力を得て尽力していきたい」と話し、資材価格の急騰や人材確保の問題など山積する課題に取り組み、地域の守り手として社会に貢献していく事業への協力を呼び掛けました。

総会には愛知県知事の大村様、愛知県議会副議長の佐藤様、自由民主党愛知県議員団団長の石井様を始めとした来賓のご臨席を賜り、来賓の皆様からご祝辞を頂きました。

続いて高柳会長が議長となり、事務局から第1号議案の説明、鈴木会計から第2号議案の説明と、清水監事から監査報告がありました。次に、再び事務局から第3号議案、鈴木会計から第4号議案についての説明があり、第5号議案として監事の選出、報告事項1として役員の変更報告、報告事項2では退会会員1社の報告があり、各議案とも満場一致で可決されました。

その後、10年にわたり会長を務められ、この度相談役に就任された水野恒平様に感謝状と記念品が贈呈されました。当日は、(株)水野工務店の山本光二代表取締役が代理受理され、定時総会は閉会しました。

総会後には、ソーシャルディスタンスに配慮した着席の形で、懇親会が和やかに営まれました。

来賓各位

愛知県知事 大村 秀章 様 愛知県議会副議長 佐藤 一志 様
 愛知県建築局長 成田 清康 様 自由民主党愛知県議員団団長 石井 芳樹 様
 愛知県建築局技監 寺本 光治 様 愛知県議会建設委員会委員長 神戸健太郎 様
 愛知県住宅供給公社理事長 水野 直樹 様

令和4年度事業計画の要旨

自 令和4年4月1日
 至 令和5年3月31日

現在の我が国の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況が徐々に緩和される中で、持ち直しの動きがみられる。先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、持ち直していくことが期待されるが、感染症による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要があるとともに、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

建設業界においては、「新・担い手3法」を踏まえて、適正な利潤が確保できるような適正な予定価格の設定、工事発注及び引渡時期の平準化、工期に関する基準等の浸透状況、ダンピング対策の徹底、適切な設計変更対応、人材確保・育成並びに働き方改革など、多くの施策が実施されている。働き方改革の実現には、書類の簡素化・書類の削減が不可欠であるが、この問題は受注者だけでは解決できない問題なので、今後、国、県に対して積極的に要望していきたい。

令和4年度の国の公共事業関係予算は、前年

度とほぼ同額の5兆2,480億円が確保されているが、今後の経済情勢を含めて動向が注視される。

また、令和4年度の愛知県予算では、公共事業・単独事業を含めた投資的経費の総額は3,105億円と対前年度比5.9%の増額となっている。県民が安心して豊かに暮らせるための生活基盤施設等の引き続き必要な整備の実施に向けて、愛知県にはご尽力を頂きたいと考える。

我々は、こうした社会の変化に対応しつつ、これからも法令遵守はもちろんのこと郷土愛知のインフラ整備を図り、建設企業として、経営の合理化、労働環境の向上・発展を目指し、建築を通して県民の安心・安全を守る社会的責任を果たして行くため、雇用を確保し、若者の入職促進や技術・技能の伝承を図るなど、会員の自覚と誇りを持って一丸となって団結していかなければならない。

本年度の事業計画に当たっては、委員会活動を中心として、次に掲げる事業等に積極的に取り組んで行きたい。

1. 当会の運営強化と基本事項の実施

- (1) 三役・支部長会議(特別委員会)の定期的開催
- (2) 県に対する公共工事発注額の増加、公正な競争の確保等の要望活動の実施
- (3) 県との意見交換会等の実施
- (4) 新規入会者の開拓、会員減少防止策の検討及び支部活動の強化
- (5) 国土交通大臣等表彰候補者の推薦者の選定
- (6) 建設業の人材確保に向けた取り組み

2. 各委員会活動の実施内容の充実

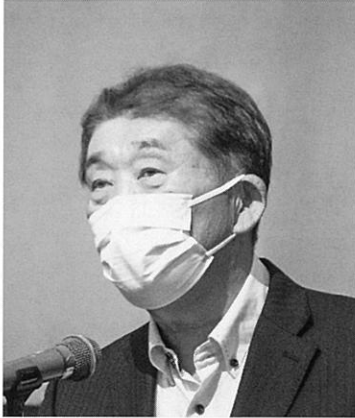
- (1) 企画総務委員会
 - ① 公共工事の入札・契約制度等に関する問題点の検討・提言
 - ② 建設業の健全な発展と経営の合理化に資する活動の実施
 - ③ 機関誌「つちおと」の発行
- (2) 安全教育研修委員会
 - ① 災害時における地方公共団体の要請に対する協力体制の確立と速やかな対応の実施
 - ② 建設作業現場の安全対策の強化に向けた啓発の実施
 - ③ 建設工事現場の視察の実施や建築 CPD 制度への取り組み
- (3) 技術積算委員会
 - ① 1級建築施工管理技術検定試験対策講習会の実施
 - ② 建築工事単価資料の作成
 - ③ 新建材、新工法の調査検討

3. 建設関係団体との連携・協力の推進

- (1) 「愛知ゆとりある住まい推進協議会」への参画
- (2) 県が行う「愛知まちなみ建築賞」への協賛
- (3) 「愛知県建築物地震対策推進協議会」への参画
- (4) 「愛知県建設業暴力追放協議会」への参画と協議会主催行事への参加促進
- (5) 「愛知県建設業企業年金基金」に対する協力

4. 建設関係情報、各種講習会情報、参考資料、各種案内書等の資料提供

会長挨拶



愛知県建築技術研究会

会長 高柳 通

開会に当り一言ご挨拶申し上げます。新会長になりました、愛知県春日井市の株式会社高柳組の高柳 通と申します。

本日は、公務ご多忙の中、愛知県知事の大村秀章様には愛知県建築技術研究会の「第55回定時総会」にご臨席賜り誠に有り難うございます。また我々愛知県民のリーダーとしてのご活躍に私は感銘を受けております。今後とも我々を引っ張っていただくようお願い申し上げます。

また、愛知県議会副議長の佐藤一志様、自由民主党愛知県議員団団長の石井芳樹様、愛知県議会建設委員会委員長長の神戸健太郎様には、ご臨席賜り誠に有り難うございます。

建築局からは先程ご講演いただきました成田局長をはじめとする建築局幹部の皆様にもご臨席いただきまして感謝を申し上げます。

私は、先月の5月13日の理事会におきまして会長に選任をされました。前会長の水野様に於かれましては、会長暦10年と長きに亘り当研究会を導いてくださいました。私が水野会長に成り代わってこの重責を全うできるかどうか不安ではございますが、ここにいらっしゃる会員の皆様と一緒に、精一杯努力をしていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

さて、最近の建築業界の動向は、民間工事が好調で、公共工事は前年度を下回るという結果でご

ざいました。現在、原材料の高騰というより急騰による建設費の圧迫、そして慢性的な人件費、人材不足など、厳しい状況に置かれております。

地域の人が安心して豊かに暮らせるための生活基盤施設等について、引き続き必要な整備の継続的な実施ができるよう、県予算の確保をお願いしたいと思います。

なお、当会では新しい事業としまして、建築業界への人材確保問題について、小学生・中学生を対象に「建築業の魅力」を体験していただく事業を、県教育委員会の「キャリアアップ教育」と協働して行っていきます。将来の建築業の担い手になっていただく企画を、今年は津島支部が中心となって実施して行きます。よろしく申し上げます。

また業界の懸案であります完全週休二日制を実施するために、工期設定を含め、県との意見交換をしていきたいと思っております。

厳しい経済環境下にあります中で、当会は現在会員数221社を保持しており、県内8つの支部から成り立ち、地域に密着した地元で愛される企業を目指して、これからも企画総務委員会、安全教育研修委員会、技術積算委員会の3つの委員会を柱に、愛知県との意見交換会、建築 CPD 制度の研修会、1級建築施工管理試験講習会、当会の機関誌『つちおと』の発行等を積極的に実施してまいります。

また、愛知県との間では「災害時における被災住宅の応急修理に関する協定書」を締結しており、災害時には、地元住民の先頭に立って安心安全を確保し、ご当局の要請に応じて行きたいと考えております。

このように「地域の守り手」として、地域社会に貢献してまいりますので、ご臨席の皆様にかかれましては、今後とも絶大なるご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最後に会員企業の発展を祈念し、私のご挨拶に代えさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。



知事挨拶



愛知県知事 大村秀章

皆さん、こんにちは。愛知県知事の大村秀章でございます。本日、愛知県建築技術研究会第55回定時総会が盛大に開催されますことをお慶び申し上げます。高柳会長始め愛知県建築技術研究会の皆様方におかれましては、半世紀を超える長きにわたりまして、建築技術の調査、そしてまた経営の改善・合理化に努められ、愛知県の建設業の発展のために御尽力いただいております。心から感謝を申し上げます。

また、愛知県の建築住宅行政の推進にあたり格別の御支援・御協力をいただいております。併せて感謝を申し上げる次第でございます。

新会長のお話にもございましたが、水野前会長が10年の長きに亘りご指導いただきまして、また後を引き継がれた高柳会長や新役員体制の皆様方にも、引き続きしっかりとご指導いただきますようお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症ですが、今日は958人ございました。7日間平均でようやく1,000人を切りました。2月のピークには6,600~6,700人まで行きましたが、ようやく1/6まで減ってきてまして、7日間平均で1,000人を切るのは1月17日以来ということで、ようやく少し落ち着いてきたのかなと思います。あと、入院患者数も200人余ということで、何とか病

院の方も持ちこたえております。引き続き、気を付けて警戒しなければいけません。やはり社会活動、経済活動を回していくということ。併せてしっかりとやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

そのためにも、今年何といても最大の愛知県のトピックは『ジブリパーク』のオープンでございます。チラシが先週できたばかりですので、後ほど皆様にお届けできればと思います。



© Studio Ghibli

こちらはスタジオジブリが監修をしておりまして、実際に『となりのトトロ』のメイちゃんが

歩いていたりしますので、ぜひ行ってみたいと思います。11月1日にジブリパークがオープン、10月には内覧会をたくさんやります。ぜひ愛知県内の関係団体・企業の皆様にも、内覧会でご案内していきたい、というのも、名古屋地区に本格的なテーマパークがなく、スタッフを2百何十人雇って2シフトでやりますが、練習しないと危ないので、とにかく稽古の位置付けでの内覧会ということでどんどんやっていきます。

ちなみにこのジブリパーク自体は、県下の皆様のご理解も得て、万博公園の中に5つのアトラクションエリアを整備して、県単独の公園事業で500億円の事業費を投入します。その上で、運営はスタジオジブリと中日新聞がジブリパーク社という会社を作って、飲食・物販・カフェ等の施設運営に数十億円投資しております。黒字運営を目指すのは大変なのですが、サポート企業も21社に上り、年間4、5千万も払っていただけるということで、大変ありがたいこととございます。なにしろ、ジブリパークは世界中が注目しているコンテンツですので、しっかりと成功させていきたいと思っております。

もう一つ、今年は、1872年（明治5年）に愛知県が誕生してから150周年でございます。明治4年に廃藩置県があり、全国に300くらいの県ができて、愛知県にも10の県ができました。それを1年かけて合併させて、尾張地方は名古屋県が愛知県になり、三河と知多の額田県を併合して、今の愛知県の形になってちょうど150年という記念すべき年です。

50年前にも式典等をやっておりますし、今年も11月に式典をやる他、様々な事業・イベントを予定しております。まず皮切りに5月30日に、今日の愛知の発展の礎を築いたトヨタ自動車の創業者である豊田喜一郎氏（故人）と、世界のSONYを創った盛田昭夫氏（故人）を名誉県民に推戴させていただき、ご令孫である豊田章夫社長とご子息である盛田英夫氏に、顕彰状と名誉県民章を授与させていただきました。世界のTOYOTAと世界のSONYが愛知県発だと言い切れる我々は幸せだと

思いますし、これを機に、後世まで長く偉業を成し遂げられた方々を語り継いでいきたいものです。

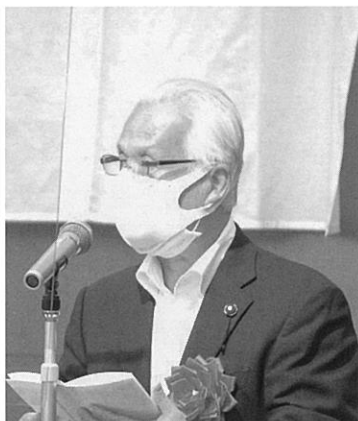
この他、リニア新幹線、中部空港の2本目の滑走路、こちらはもう2月から、沖合の護岸工事は名古屋港の浚渫土砂で埋めるという形で、土地ができれば滑走路を造る工事をどんどん進めていきたいと思っております。そうした建設投資、建設インフラ整備を含めて、また皆様方のお力をいただいでしっかりと進めてまいります。

最後に2点、ご心配をお掛けしたことをご報告します。6月6日に豊山町の名古屋市中央卸売市場北部市場付近の下水道が突然流れなくなり、河川から水が逆流することなどを防ぐゲートがなぜか閉じてしまって、地表まであと30cmのところまで汚水が上がってきて、2日間、夜通しバキュームカー20台で新川東部浄化センターへ運ぶという危機がありました。8日の朝に何とか回復はしましたが、今、愛知県内の全ての下水道に対して緊急点検を実施しております。原因を解明して、こうした事態が2度と起きないようにしたいと思います。

もう1点、寝耳に水で驚きましたのが明治用水頭首工の件です。矢作川の底に穴が開いてしまったということで、東海農政局、中部地方整備局、水資源機構、名古屋に支店を構えるゼネコン、全てに働きかけ、中部地区にある大型ポンプ車を162台かき集めて毎秒9トンの水を確保して、4日に1回の農地の輪番通水と工業用水の5割まで回復をいたしました。今は、ポンプではなく自然に取水できるように、10mの矢板をたくさん打って川の水を自然に流す工事を、夜通し、土日もやっております。まずは応急処置をして、だいたい目途も立って、原因も分かってはきております。

立て続けに起きた事態ですが、しっかりと対応していきたいと思っております。引き続き皆さんと一緒に、この愛知のインフラ整備、愛知の発展のためにしっかりと盛り上げていきますので、よろしく願いいたします。今日は本当におめでとうございました。

議長挨拶



愛知県議会

副議長 佐藤 一志

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介を賜りました、愛知県議会副議長の佐藤一志でございます。

本日、愛知県建築技術研究会の第55回定時総会が開催されるにあたり、県議会を代表いたしまして一言、ご挨拶を申し上げます。

ご参会の皆様方には、日頃から建築技術の開発・研究、技術力向上の研鑽に日々励まれ、本県の住環境の整備に格別のご尽力を賜っており、深く感謝申し上げる次第であります。

さて、我が国の建築技術は、時代の要請に応え、幅広い分野でその水準の向上が求められてまいりました。

近年では、建築物の安全性の確保、品質の向上はもとより、地域の景観や環境への配慮など建築技術の多様化・高度化が一層求められているところであります。

こうした建築ニーズに的確に応えていくためには、長年にわたり培われた豊かな知識や、高度な技術を備えた皆様方のお力添えが何よりも必要でございます。

また、この地域におきましては、昭和東南海地震、三河地震、昭和南海地震が発生してから

70年以上が経過しており、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まってきております。

さらには、大雨、その他自然災害による被害の激甚化が懸念される中、愛知県建築技術研究会におかれましては、愛知県地域防災計画に基づく本県との協定により、その優れた専門性をもって、災害時における被災住宅への応急修理等にご協力いただけますことは、誠に心強い限りであります。

私ども県議会といたしましても、県民誰もが、安全・安心で心豊かに暮らすことができる地域づくりに全力をあげて取り組んでまいり所存でございます。

どうか皆様方には、今後とも建築技術の更なる向上にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、愛知県建築技術研究会のますますのご発展と、ご参会の皆様方のご健勝とご活躍を心から祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



自由民主党愛知県議員団

団 長 石 井 芳 樹

ご紹介いただきました、自由民主党愛知県議員団団長の石井芳樹でございます。本日は、貴会定時総会のご盛会を心よりお慶び申し上げますと共に、平素は高柳会長始め様々な技術研究の下、私たちは皆様のおかげをもちまして、優良な住宅環境の中で安心して暮らせるものと、心より感謝申し上げますところであります。

さて、来年はこの地域に焦点が当たる年であります。「どうする家康」がNHKの大河ドラマで始まります。私が常々思うのは、あの戦国時代、とにかく城を攻めさせないために道を細くして、曲がりくねった障害物をたくさん作っていた時代に、織田信長は、獲得した領地に関所を配置して、6m道路を作って、並木を植えて、更には宇治や瀬田や大井川に橋を架けて、インフラの整備を行うことによって、まずは兵站を確保し、武器や弾薬を最前線に運び、そして、物や人を動かすことによって、その地域を富ませたという、ある意味凄い人物だなあというところがあります。

普段、私たちは、この社会インフラというものは、水や空気のように当たり前そこにがあるような感じがするものでありますが、先ほど知事も申しておりました豊山町の下水道の逆流であったり、例えば明治用水の頭首工であったり、いざ壊れるとなると、改めてその必要性を深く知るところであります。

この愛知は正に、災害を通じて復興を繰り返しながら、大きくなった町であります。今後は南海トラフの大地震も予想されており、更に皆様方の双肩に掛かる力は大きくなると思うところでもあります。

私たち自由民主党愛知県議員団は、57人という過半数を持つ県議団であります。皆様方の役員さんと、しっかりと時代に併せたニーズを取り入れながら、そして県行政に反映しながら、最終的には安心・安全、県民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを担保していきたいところでもあります。

今後とも、会員の皆様のご尽力を切にお願い申し上げます。また、併せて皆様方のご健勝、ますますのご発展を祈念いたしまして、簡単ではありますが一言、総会に当たりご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



総会フォトギャラリー

1

第55回定時総会



成田局長を紹介する伊藤副会長



成田局長の講演のようす



ご来賓の皆さん



ご来賓の皆さん



高柳新会長のご挨拶



榊原副会長の総司会



川崎副会長の開会宣言



鈴木会計理事と清水監事



高柳会長から水野前会長代理への感謝状贈呈

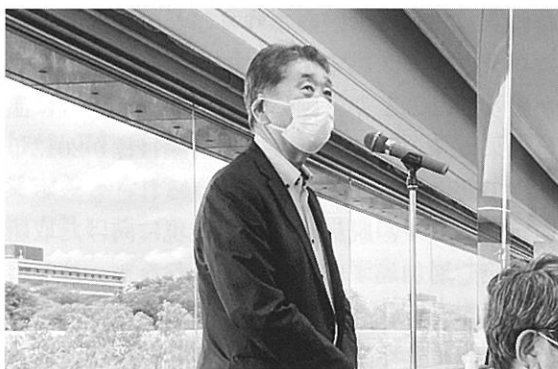


定時総会懇親会

懇親会は、定時総会終了後の午後5時30分から、大ホール横のホテルオークラレストランにて開催されました。懇親会は入谷新副会長の司会により始まり、高柳会長が、懇親会開催の挨拶として、定時総会が無事終了したことへの

謝辞を述べ、乾杯の音頭を取りました。

今回は、コロナ下での初めての懇親会ということで、会員のみ着座でのささやかなパーティとなりましたが、参加した皆様は久しぶりの旧交を温め、それぞれに懇親会を楽しんでおられました。



高柳会長の懇親会挨拶



和やかな会場



入谷副会長の司会進行



和やかな会場

「2022年度建築住宅行政」について



愛知県建築局長 成田 清 康

愛知県建築局長の成田でございます。

愛知県建築技術研究会の皆様方におかれましては、日頃から、本県の建築・住宅行政の推進についてご理解とご協力をいただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

それでは、「2022年度建築住宅行政について」ということで、1「愛知県住生活基本計画2030」について、2 県営住宅 PFI 事業について、3 県有施設の整備について、お話しさせていただきます。

1 「愛知県住生活基本計画 2030」について

まず、本年2022年3月に策定した「愛知県住生活基本計画2030」について、計画の背景と目的、めざすべき住まいとまちの将来像、基本的な方針と8つの目標をご説明させていただきます。

計画の位置づけですが、住生活基本法第17条に基づく、愛知県における住まい・まちづくり分野の基本的な計画であり、国の定める全国計画に即して定めたものです。

計画期間は2021年度から2030年度までの10年間で、10年後を見据えた目指すべき将来像を示し、県民が愛知に住むことに誇りと愛着をもち、また、県外の方が愛知に住むことを望むような住まい・まちづくりに努めることとしております。

計画策定の背景ですが、本県では2016年度に計画期間を2016年度から2025年度とする「愛知県住生活基本計画2025」を策定し、施策を展開してきました。しかし、策定から5年が経過する中で、社会環境等の変化として南海トラフ地震の発生確率が30年以内で70%程度から70%～80%に見直され、気候変動により頻発・激甚化する自然災害によるリスクの高まりや、新型コロナウイルス感染症の拡大等、県民の生命や健康に関わるリスクが高まりました。また、新型コロナウイルス感染症等により新たな生活様式が普及したことや、国において2020年10月に温室効果ガスの2030年度の排出削減目標が2013年度比で26%から46%に引き上げられ、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向けた取組が今後一層加速すると考えられるなど、社会環境は大きく変化しております。

本計画は、そういった近年の社会環境の変化を踏まえ、県民の住まいや多様なライフスタイルに関するニーズ等に的確に対応するため、見直しを行ったものです。

次に計画の目的です。県民の住生活の安定の確保及び向上の促進のためには、生活の基盤となる良質な住宅を供給することにとどまらず、住宅の手入れや住環境を守り育てていくこと、住まい手の意識や住まい方に働きかけていくことにより「住まい・まちづくり」に関する取組を推進することが重要であります。また、こうした取組を進めるにあたっては、県民、地域団

体、住宅関連事業者、公的団体、行政などが、住まい・まちづくりに関わる主体となって、目標や方針を共有し、連携して取り組むことが重要であり、そのための指針として策定したものです。

そして、これからの暮らし、住まい、まちの3つの視点から将来像1、2、3を示しております。

将来像1：「県民の誰もが、安全に命が守られ、安心して健やかに暮らしている」

将来像2：「県民が、良質で健全な住まいで暮らし、住み継いでいる」

将来像3：「環境と調和し、スマートで魅力ある豊かなまちが形成されている」

具体的な施策の展開にあたっては、これら3つの将来像に対応した3つの方針と8つの目標を定めております。

【方針Ⅰ】 先ほどの将来像1に対応するものとして、安全・安心で「『健やかな暮らし』をまもる」です。また、この方針に基づき、4つの目標を定めております。目標1は、地震や新型のウイルス感染症などの危機への備え、目標2が子育て世帯、若者や子どものための環境づくり、目標3が高齢者のための暮らしの確保、目標4が住宅確保要配慮者のためのセーフティネット機能の確保です。

【方針Ⅱ】 将来像2に対応するものとして、良質で健全な「『住まい』をすみつく」です。この方針に基づき定めている目標は2つで、目標5はカーボンニュートラルの実現に向けた住まいの質の向上、目標6はリフォーム等による既存住宅の循環やマンション管理の適正化など良好な維持管理、適切な評価による健全なストックの形成・循環です。

【方針Ⅲ】 将来像3に対応するものとして、魅力ある「『豊かなまち』をはぐくむ」です。この方針に基づき定めている目標は2つで、目標7は環境と調和した豊かなまちを育む地域産業の育成・支援、目標8は地域特性に応じた魅力と住みやすさの維持・向上です。

以上8つの目標のうち、重点的に取り組む事項として目標1の災害や感染症などから命と健康が守られた暮らしを確保すること、目標4の高

齢者等が安心して暮らせる住宅セーフティネットの充実を図ること、目標5のカーボンニュートラル実現に向け住宅分野での対応を図ることの3つの目標に積極的に取り組んでまいります。

こうした取組を進めるにあたっては、本日ご参加の皆様のお力添えが不可欠であります。本計画の目標達成に向け、皆様のご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

2 県営住宅PFI事業について

・PFI手法による建替事業の状況

本県の県営住宅は、現在297団地、管理戸数は約5万7千500戸ですが、昭和40年代に建設された大量の県営住宅が、今後一斉に更新時期を迎えるため、これら老朽化が進む県営住宅の建替を着実に推進していく必要があります。

そこで本県では、民間事業者のノウハウ活用により、事業費の縮減や事業期間の短縮を図ることを目的として、PFI手法を導入して建替事業を行うこととしました。この建替事業は、2017年度の東浦住宅を皮切りに、これまで10住宅12事業で実施しております。昨年度、鳴海住宅（第1次）、上和田住宅（第1次）の2事業が完了し、今年度は、東浦住宅、西春住宅、初吹住宅、上郷住宅の4事業が完了する予定です。また、2020年度の鷺塚住宅始め6事業については、引き続き建替事業を進めていきます。

次に事業概要ですが、これまでの事業では、住棟建設、既存住棟等の除却、駐車場・児童遊園などの付帯施設の整備を行っており、建替戸数は1棟で24戸と小規模なもの（上郷住宅）から、3棟で336戸と大規模なもの（鳴海住宅〈第1次〉）まで幅広くあります。

また、建替に伴い創出される余剰地に対する用地活用を含むものが7事業あり、その内6事業で戸建て住宅や子育て支援施設などの活用の提案がありました。1事業は提案がなかったため用地活用を事業範囲から外しました。一方で、用地活用を含まない住棟建設等のみのものも5事業あります。

各事業の入札参加者が複数となった事業は、残念ながら12事業の内4事業のみで、1～4者とかかなり少ない状況となっています。事業者からの提案としては、住戸内では、対面キッチンやクロスによる内装仕上げ、共用部では、堅樋

の位置の工夫、共用廊下の幅を有効に活用する提案など、民間事業で良く取り組まれているものがほとんどです。皆様におかれましては、是非ご参加の検討をしていただけたらと思います。

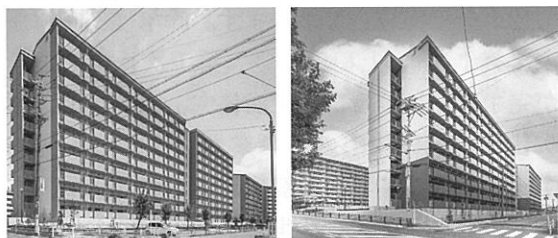
・これまでの主な PFI 事業の紹介

○東浦住宅

2017年度に、県営住宅で最初の実施した PFI 事業で、1999年度（平成11年度）から進めていた建替事業の最終段階で、老朽化した既存住棟を建替えるとともに、県営住宅用地としては利用しなくなった部分を活用用地とする PFI 事業として発注したものです。

既存住棟10棟430戸を除却し、新たに3棟計280戸の建設を行います。また、活用用地に戸建て住宅を66戸と、子育て支援施設として保育所等を建築する提案を選定いたしました。

現在の進捗状況です。3棟の住棟の工事は完了しており、北棟は2020年6月1日に、また南棟2棟は2021年7月1日に管理開始しています。



北棟

南棟 (2棟)

活用用地については、北東部の活用用地は2021年5月31日に土地の売買契約を締結し、宅地造成も終わって、戸建て住宅29戸の宅地分譲及び住宅建築が始まっています。

また、南部の2か所の活用用地は、現在、既存住棟の取り壊し後の整地中で、2022年7月に土地の売買契約を締結する予定です。一方には戸建て住宅37戸を、もう一方には、子育て支援施設として、保育所等（保育所、児童発達支援センター）が整備される予定です。

○鳴海住宅（第1次）

2018年度に事業者の選定手続きを行った名古屋市緑区の住宅で、既存住棟4棟144戸を除却し、新たに2棟計120戸の建設を行うものです（用地活用はなし）。既存樹木をシンボルツリーにした「桜広場」や、住棟の間に駐車場に転用

可能な児童遊園を設ける等の提案が評価されました。



2022年1月31日に事業が完了し、西側のA棟64戸は2021年5月1日に、東側のF棟56戸は2022年2月1日に管理開始しています。

○上郷住宅

2019年度に事業者の選定手続きを行った、豊田市の住宅です。既存住棟5棟120戸を徐却し、新たに1棟24戸の建設を行うもので、用地活用を含みます。敷地東側に広がる田園風景と連続するような広場などの提案が評価されました。また、活用用地には、戸建て住宅を41戸建て築する提案となっています。

現在の進捗状況ですが、住棟の工事は完了し、2022年5月1日に管理開始しています。8月より、既存住棟の除却工事を予定しています。活用用地については、既存住棟の除却後、2023年1月ごろに土地の売買契約を締結する予定です。

○野並住宅

2020年度に事業者の選定手続きを行った名古屋市天白区の住宅です。2棟で計84戸の建設を行うもので、用地活用を含みます。なお、既存住棟9棟359戸の除却は、別途通常発注を行いました。

地域のコミュニティの核となる、広く見通しの良い児童遊園の整備や、地域に資する生活支援施設を整備する点などが評価されました。また、活用用地には生活支援施設として、住宅型優良老人ホームを建築する提案となっています。

現在の進捗状況ですが、D棟42戸及びF棟42戸の建築工事に着手しており、基礎、地中梁工事を実施しています。また、集会所は2022年

2月1日に管理開始しています。



D棟・F棟 工事現場

集会所

○清水住宅

2021年度に事業者の選定手続きを行った東海市の住宅です。既存住棟8棟251戸を除却し、新たに2棟77戸の建設を行うもので、用地活用を含みます。戸建て住宅と子育て支援施設を整備し、子育て世帯の定住促進を図ることで、県営住宅との一体的なまちづくりによる地域の活性化を目指した点が評価されました。活用用地には、戸建て住宅を26戸と、子育て支援施設として保育所等を建築する提案となっています。

現在の進捗状況ですが、2022年12月ごろの住棟の工事着手に向け、基本設計中です。

・2022年度の事業者選定住宅

今年度は、名古屋市の大森向住宅においてPFI事業者の選定を行うこととし、実施方針を2022年4月20日に公表しました。今後は、6月の入札公告、7月の参加書類の受付を経て、9月には、入札書類の受付を予定しています。

大森向住宅の簡単な事業概要ですが、所在地は名古屋市守山区天子田三丁目地内、敷地の北側を矢田川が流れ、周辺には東名高速道路、名古屋第二環状自動車道が通っていて、名鉄瀬戸線「印場駅」から南に約1.2kmの位置にあります。

事業内容としては、既設住棟4棟170戸を除却し、新たに126戸分の住棟2棟を建築するもので、用地活用はありません。詳しくは、公営住宅課ウェブページをご覧ください。

・PFI事業以外の発注工事

建替事業では、PFIによる効果が見込めない住宅については通常発注をする予定です。

具体的には、豊橋市の西口住宅は、建替事業の最終棟で整備戸数が56戸と比較的小規模かつ用地活用を含まず、提案の余地も少ないので通常発注です。

また、建替事業以外の長寿命化改善工事等は、提案の余地がないので通常発注する予定です。

長寿命化改善工事は、県営住宅を耐用年限まで安全に使用するため、外壁や屋根などの仕上げ材の更新、構造体の耐久性の確保、バリアフリー化、配管の更新などを行うものであり、1980年（昭和55年）以前に建設されたエレベーターのある住宅を対象に実施しており、建替事業と長寿命化改善事業を適切に組み合わせることで、効率的な更新を図っております。

こちらは、長寿命化改善工事を実施し、2020年に竣工した瀬戸市の八幡台住宅の外観写真です。外壁や屋根防水の更新に合わせ、PCaアウトフレーム工法を採用しました。



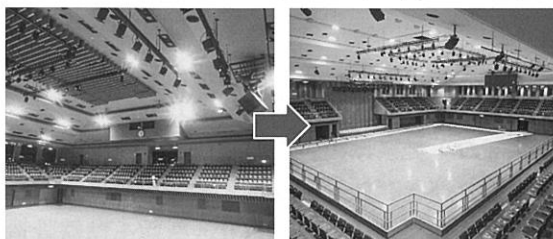
最後に、今年度の長寿命化改善工事ですが、名古屋市中川区の中川住宅（95戸）、北区の織部住宅（85戸）、名東区の高針住宅（169戸）、知多市の岡田住宅（20戸）の4住宅で予定しております。

3 県有施設の整備について

・2021年度完了工事

【武道館特定天井改修工事】名古屋市

武道館は1993年に建設された運動施設で、エントランスホールの吹き抜け部分の天井が面積約540㎡、天井高さが約10.2m、また大道場の天井が面積約1,600㎡、天井高さが最も高い部分で約14.3mあるため、特定天井に該当します。



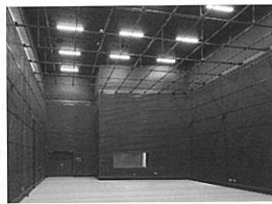
左側の写真が改修前の大道場で、右側が改修後です。改修は、既設天井下地及び仕上げ材を共に撤去し、地震に耐えられる天井下地を新たに設け、仕上げ材は音響面等から既設と同様のものとなりました。工事は、本年1月に竣工しました。

【県立芸術大学美術学部メディア映像専攻校舎（映像スタジオ棟）】長久手市

撮影に特化した施設で、鉄骨造、平屋建て、延べ面積は252㎡です（詳細はつちおとNo.140参照）。昨年8月に竣工し、4月に供用を開始しました。



外 観



映像スタジオ



副調整室

【にしお特別支援学校】西尾市

体育館を含む校舎棟は、鉄骨造、2階建て、延べ面積12,602㎡です。2つの中庭を囲む平面レイアウトで、1階に知的障害学級及び肢体不自由学級、2階に知的障害学級を配置しています（同つちおとNo.140参照）。

ふれあいホールには、1階と2階をつなぐ円形のスロープを設け、学校の中心を強調すると共に児童生徒の動線を整理しました。工事は本年3月に竣工し、4月に開校しました。

• 2020・2021年度発注工事の進捗状況

【岡崎高等技術専門校（新館1）】岡崎市

2020年度に発注した職業訓練校です。県内に6校あった高等技術専門校が、老朽化対策と人材育成機能強化のため3校に再編・整備される中で、岡崎高等技術専門校は、三河地域の高等技術専門校の訓練科・コースが集約され、高度なモノづくりの人材育成拠点として位置付けられました。施設は、新たに建設する新館1と新館2、及び既存施設を改修して使用する機械実習棟を主体に構成されており、新館1は鉄骨造

2階建て、延べ面積4,913㎡で、職員室や多目的室などの管理諸室や電気工事コースを配置し、新館2には、運用開始が遅いロボットシステムコースなどの3つのコースが配置されます。

動線計画においては、歩車分離とし、来校者と教職員は敷地の高低差を活かした2階の玄関をメインの出入口に、訓練生はコース毎に分散配置された1階の出入口を利用することで、通学時間帯の混雑の緩和や訓練生の利便性に配慮しています。ゾーニングにおいては、高等技術専門校の機能拡充に伴い、高度な訓練環境の整備と、共用部や屋外通路を合理的にまとめながら、複数の訓練コースを明快な配置にまとめています。

新館1の工事は2020年10月に着手し、今年度2023年2月までの工期を予定しています。

なお、後続して整備を行う新館2については、第三四半期を入札予定として現在発注の準備を進めています。

【千種聾学校ひがしうら校舎】知多郡東浦町

次に、2021年度に発注した聾学校です。県内には、名古屋、千種、豊橋、岡崎、一宮の5つの聾学校が設置されています。いずれも通学区域は広域ですが、なかでも、知多地区から一宮聾学校へ通学する幼稚部、小学部の幼児児童生徒の多くは保護者の送迎により通学しており、長時間通学が課題で保護者の負担となっていることから、県立東浦高等学校の敷地内に幼稚部及び小学部を対象とした聾学校の分校を設置することで、課題解消を図ることとしました。

校舎棟の構造規模は、鉄骨造2階建て、延べ面積は1,853㎡です。2つの中庭を囲む平面レイアウトとなっており、1階に幼稚部の教室を、2階に小学部の教室を配置しています。

ゾーニングは、幼稚部、小学部、管理諸室、共用ゾーンを明確に区分けし、まとまりのある計画とするとともに、吹き抜けや中庭を組み込んだセンターコア型中廊下とすることで、明るく開放的な室内空間となるよう配慮しています。

2階には、テラスに面してオープンスペースを設けることにより、学習以外で児童生徒が気軽に休憩や談話に利用できる空間を提供します。

本年3月に工事請負契約を締結し、来年2月までを工期として整備を進めています。

・2022年度発注予定の工事概要

【岡崎特別支援学校】岡崎市

岡崎特別支援学校は1963年に開校し、現在、肢体不自由のある児童生徒を対象として運営されています。建設後約60年が経過し、施設の老朽化が著しく、また、傾斜地に立地していることから敷地の高低差が大きく、車いす等を利用する児童生徒の校内での移動に課題がある状況となっています。

南海トラフ地震や局地的な豪雨が懸念されるなか、児童生徒の安全な学習環境を確保するとともに、立地上の課題を解消するため、現在の校地から愛知県立農業大学校敷地内に移転することとしました。

建物は、鉄骨造2階建て、延べ面積が9,540㎡で、左側の1階平面の左側中央部の昇降口から見通しが良くなるよう、建物の中心に配置したコミュニティモールを軸として、各教室へ移動できる単純明快な計画としております。また、広場や中庭を囲んで各室を配置することにより、自然採光や通風を確保したほか、外部空間と内部空間の一体的利用を可能にすることで、外部とのつながりを意識した計画としています。

本年10月の工事請負契約を目指し準備を進めており、工期は2024年2月までを予定しています。

【県立芸術大学美術学部新彫刻棟（仮称）（第2工区）】長久手市

美術学部校舎は、開学当初の1966年から使用されている建物が多数あり、老朽化が著しく、教育研究活動に支障が生じています。特に、日本画専攻、油画専攻及び彫刻専攻は、教育研究活動の多様化に伴う機能不足や空間不足が生じています。このうち、作品の大型化に加え、騒音・振動や粉塵の発生による周辺教育環境への影響の大きい彫刻専攻の移転を優先的に進めることとしました。

建物は、RC造一部鉄骨造の平屋建てやRC造一部木造の地上1階地下1階建てなど合計7棟から構成されており、延べ面積の合計は1,570㎡です。

彫刻専攻の学生が使いやすいように、工房を中心に屋外作業スペース、アトリエを連続的に配置するとともに、他の学部棟側に交流・管理

棟を配置することで、表現の手法や工程に応じて活動場所を選ぶことができ、他学部生との交流の場や創作に集中できる環境を提供します。

先に発注した第1工区は既に工事請負契約の締結を終え、本工事は、本年9月の工事請負契約を目指し準備を進めているところです。

次にお示しするのは、4月に公表しました今年度の発注見通しのうち、公営住宅課及び公共建築課の発注予定分を、工事場所ごと、工種ごとにまとめたものです。

今年度は、全工種合わせて264件の発注を予定しており、昨年同時期の発注見通しの件数に比べ1.18倍となっています。工種別に見ると、建築工事の件数は前年度比1.17倍で、電気工事は1.32倍、管・空調工事は1.24倍です。

2022年度発注予定の工事概要

<発注予定件数（公営住宅課及び公共建築課）> ()内は前年度比

工事場所	建築	電気	管・空調	解体	その他	
名古屋市内	21	10	16	-	-	47
尾張建設事務所管内	13	9	13	1	3	39
一宮建設事務所管内	8	4	8	-	-	20
海部建設事務所管内	4	4	6	-	1	15
知多建設事務所管内	10	5	8	-	2	25
西三河建設事務所管内	12	6	11	2	3	34
知立建設事務所管内	10	5	9	-	1	25
豊田加茂建設事務所管内	6	3	4	-	-	13
新城設楽建設事務所管内	3	-	1	-	-	4
東三河建設事務所管内	15	12	12	-	3	42
計	102 (1.17)	58 (1.32)	88 (1.24)	3 (0.38)	13 (0.93)	264 (1.18)

※2以上の事務所管内にまたがる発注は、主な事務所管内において計上

発注見通しは、電子調達共同システム（CALS/EC）の入札情報サービスでご覧いただけます。これから発注する案件もいくつかございますので、積極的なご参加をお願いします。

最後になりましたが、愛知県建築技術研究会におかれましては愛知県地域防災計画に基づき、災害時における被災住宅の応急修理に関し本県と防災協定を結んでいただいているところです。

今後とも地元を支えられている皆様方と連携を密にして、「安心・安全」で「住みよい」まちづくりに取り組んでまいりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いするとともに、愛知県建築技術研究会の今後のますますのご活躍とご発展を祈念いたしまして、講演を終了させていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

中小建設業建築技術者研修会

令和4年7月6日(水)午前9時05分より、(一社)名古屋銀行協会2階201号室にて、安全教育研修委員会の主催による、愛知県の建築CPD制度を取り入れた中小建設業建築技術者研修会が行われました。

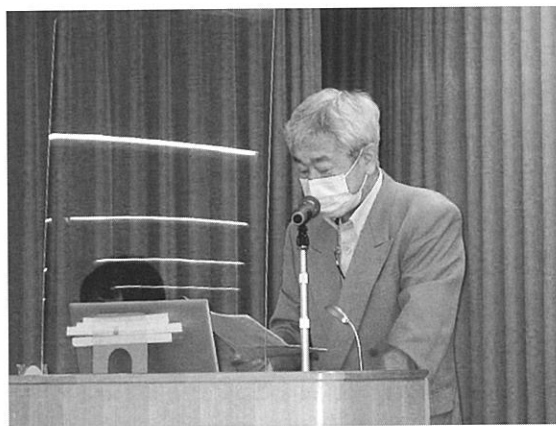
この研修会は、実際の愛知県の一般競争入札の総合評価落札方式で、配置予定技術者の過去1年の実績として建築CPDが6単位から1点の加点になることを鑑みて、この要件を満たすべく6単位が1日で認定されるように組まれております。

前日までの台風予想を裏切る、晴れた暑い一日となりましたが、当日は申込者38名全員が参加し、CPD単位を認定された方は36名となりました。会員参加者に交じって非会員参加の方も2名おられ、コロナ禍の続く中で盛況であったと言えると思います。



受付でのCPD認定カードとの照合

まず初めに、司会進行の近藤副委員長が当日の内容と受講の際の注意事項等を確認し、次に田中委員長が登壇し、ご挨拶と共に、「建築CPD(継続教育)制度」の概要と趣旨について説明をしました。



田中委員長の挨拶

1限目の講義は、「改正されていく安全対策について」という演題で、角文株式会社の安全品質環境管理部門次長の水野 朗氏が講義をされました。

水野氏からは80分にわたり、働き方改革から化学物質の管理法、熱中症対策、交通安全など、多岐にわたる建設業の安全対策の最新情報を教えていただきました。



水野 朗氏の講義

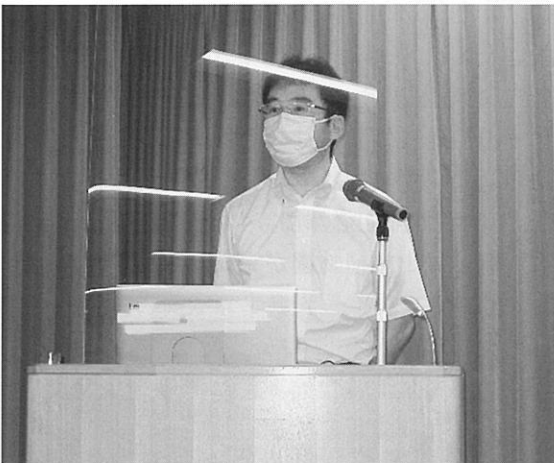
2限目の講義は「工事検査に係る注意事項について」という演題で、愛知県建設局土木部建設企画課の主査である早佐太作氏の講義でした。早佐氏は工事検査のポイントについて教えて下さいました。質疑応答が行われ、受講者にとっても関心の深い講義となりました。



早佐太作氏の講義

昼食休憩を挟んで3限目は、「産業廃棄物の適正処理について」と題した、愛知県環境局資源循環推進課の課長補佐である松尾繁展氏の講義でした。

松尾氏は、投影された講義資料と並行して、2022年4月版の「産業廃棄物を適正に処理しましょう」という愛知県のパンフレットを配布し、近年ますます難しくなっている産業廃棄物処理について教えて下さいました。



松尾繁展氏の講義

コーヒープレイクを挟んで4限目は「解体等工事の石綿飛散防止対策に係る大気汚染防止法の規制について」という演題で、愛知県環境局環境政策部水大気環境課の課長補佐である中村

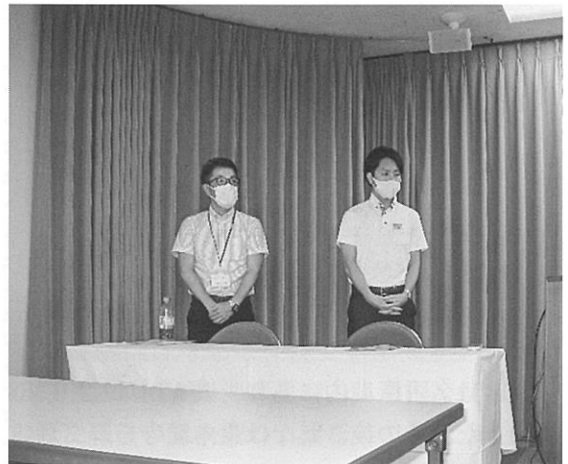
崇利氏が講義をされました。中村氏は、大気汚染防止法の改正内容、建築物等の解体等を行う前に実施する石綿含有建材が使用されているかの事前調査等について教えて下さいました。



中村崇利氏の講義

最後の5限目は「あいち建設情報共有システム」について、愛知県建設局土木部建設企画課の主任である川崎雄貴氏と愛知県都市整備協会建設技術課の主任である黒内薫氏の講義でした。

お二人は交代で、実際にパソコンの運用画面を実演して見せながら、あいち建設情報共有システムの機能やメリットを教えて下さいました。



川崎雄貴氏（向かって右）と黒内薫氏

安全教育研修委員会では、今後ともこの研修会に力を入れていく所存ですので、会員の皆様に於かれましては、安価に建築CPDの単位を取得できるこの機会を、積極的にご活用いただきたいと思ひます。

（この講演内容は、安全教育研修委員会で編集しました。）



©RENGAYA

4

愛知県150年の歩み



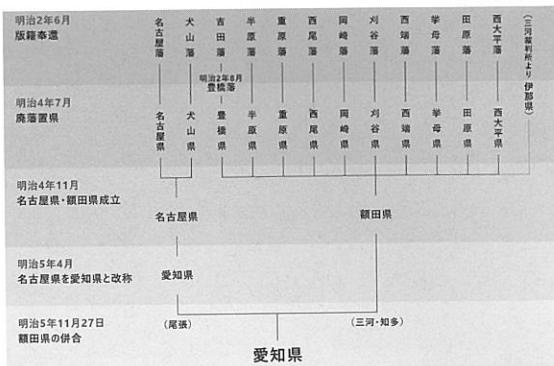
©RENGAYA

1872(明治5)年11月27日に、当時の愛知県(名古屋県が改称)と額田県が合併して現在の愛知県が誕生してから、今年で150周年を迎えます。県政150周年は、愛知の歩みを振り返り、郷土への愛着や誇りを改めてお持ちいただく貴重な機会です。

愛知県建築技術研究会でも、県政150周年事業に、協力団体として参加しております。そこで、今号を愛知県政150周年特別号とし、愛知県の150年の歩みを振り返りたいと思います。

◆版籍奉還から愛知県の礎成立まで

愛知県は、新橋一横浜間に日本最初の鉄道が走った1872(明治5)年に、名古屋県(尾張)と額田県(三河)が合併して誕生しました。



県庁は名古屋城内にあり、県人口は1,210,368人でした。その後、県庁は東本願寺を経て名古屋南久屋町(現中区)に移転します(つちおとNo.139参照)。

1879(明治12)年に最初の県会議員選挙、翌年には明治用水が通水しています。東京から14年後の1886(明治19)年には、熱田一武豊間に鉄道も開通し、わずか3年後の1889(明治22)年には新橋一神戸間の東海道線が全線開通。市制施行後の名古屋市人口は157,496人となり、

初めて電灯が灯りました。1891(明治24)年には郡制が施行、この年には内陸発生としては最大級のM8.0の濃尾地震が発生しましたが、翌年には県人口が150万人を超えて府県制が施行されました。

◆インフラと産業の目覚め

1907(明治40)年、名古屋市内にはガス灯が灯り、熱田湊は名古屋港と改称されます。5年後には県人口は200万人を超え、1914(大正3)年には、名古屋市で上水道の給水が始まりました。

1922(大正11)年には、東京市、京都市、大阪市、横浜市、神戸市と共に名古屋市が6大都市と定められ、電車事業の営業も開始、3年後にはラジオ放送も開始されました。1927(昭和2)年には名古屋一豊橋間で愛知電気鉄道が開通します。

1930(昭和5)年に名古屋市営バスが営業開始、1933(昭和8)年には、現在の名古屋市役所庁舎が先に竣工します。1935(昭和10)年に名古屋鉄道発足、翌年には中日ドラゴンズの前身である新愛知新聞社の名古屋軍が誕生し、鳴海球場で国内初のプロ野球試合が行われました。日中戦争勃発の1937(昭和12)年には、名古屋駅と東山動植物園が完成しています。



写真提供：名古屋市東山動植物園

1938(昭和13)年には、愛知県の人口は300万人を超え、中区三の丸に「帝冠様式」と呼ばれる現在の形の愛知県本庁舎が完成しました。



(絵はがき) 正面より観たる愛知県庁
愛知県公文書館所蔵

しかし、翌1939年には第2次世界大戦が勃発、太平洋戦争へと突入していきます。

1942(昭和17)年には、名古屋が初めての空襲を受け、1945(昭和20)年8月15日の終戦を迎えるまでに、市街地は繰り返し空襲を受けて、5月には国宝第一号だった名古屋城が焼け落ちました。その間には東南海地震と三河地震も発生しており、正に受難の歴史と言えます。

終戦後、日本国憲法が公布され、1948(昭和23)年には公選の愛知県教育委員会が発足、翌年には新制名古屋大学・名古屋工業大学・愛知学芸大学が誕生します。そして、1950(昭和25)年には、現在の愛知県章が制定されました。同じ年には第5回国民体育大会も開催されています。



愛知県章

◆戦後復興の確かな歩み

日米安全保障条約が調印された1951(昭和26)年には、中部経済連合会が発足。中部日本放送が民間初のラジオ放送を開始しました。その3年後には名古屋テレビ塔が完成し、愛知のテレビ放送がスタートします。

1955(昭和30)年に愛知県文化会館美術館が開館。翌年、名古屋市は政令指定都市となり、名古屋駅前に地下街が誕生、市営地下鉄が名古屋一栄間を走り始めます。県人口は400万人を超えました。

そんな折、愛知県を伊勢湾台風が襲ったのが1959(昭和34)年のことです。県内の死者は約3,200人とされる未曾有の大災害でした。



近鉄佐古木駅付近(現弥富市)の浸水の様子
愛知県公文書館所蔵

それでも戦後復興の確かな歩みは続き、現在の名古屋城はこの頃再建されています。

◆高度成長期と愛知の発展

日本の高度成長期に当たる1960(昭和35)年、小牧飛行場は名古屋空港へと改称し、翌年に愛知用水が完成、愛知県の花き生産額は全国一位となります。1964(昭和39)年には、東京オリンピックの開催に併せて東海道新幹線が開通し、翌年には名神高速道路も小牧～西宮が全通。1967(昭和42)年には、日本の人口が1億人を突破、愛知県の人口も500万人を超えました。

1969(昭和44)年、人類がついに月面に到達した年に東名高速道路が小牧～東京で全通し、翌年には大阪で日本万国博覧会が開催されました。同じ年、東加茂郡松平町の豊田市編入で、愛知県は88市町村となります。愛知県と名古屋市の出資により名古屋高速道路公社が設立、のちに愛知万博が開かれ、ジブリパークの礎となる愛知青少年公園は、この年に開園しました。

1972(昭和47)年は札幌で冬季オリンピックが開催され、また沖縄返還、日中国交回復が行われた戦後の総決算のような年でしたが、愛知県も県政100年記念式典という節目を迎えました。

オイルショック後も愛知県の歩みは止まらず、1975(昭和50)年に愛知県議会議事堂が竣工、翌年には愛知県緑化センターが開園し、県人口は600万人を超えました。この頃、県の製造品出荷額等が全国第一位に躍り出ています。

成田空港が開港した1978(昭和53)年には、

愛知県陶磁資料館（現美術館）が開館、1980（昭和55）年にオーストラリア・ビクトリア州及び中国江蘇省と友好提携しています。

ニューヨーク株式市場が大暴落したブラックマンデーを経て、1987（昭和62）年にJR東海が発足、翌年、愛知環状鉄道が開通しました。更にその翌年には天安門事件が起こり、3%の消費税が導入されて、時代は平成へと入っていきます。

◆文化の深まり～そして平成へ

1990（平成2）年、ベルリンの壁が崩壊し、ついに東西ドイツが統一されました。日本がバブル景気に沸くこの頃、1991（平成3）年に愛知県芸術文化センターの先駆けとして愛知県図書館が開館、翌年栄地区に、本格オペラが上演できる劇場とクラシック専門のコンサートホール、常設展示と屋上庭園を持つ美術館の複合施設が開館しました。同じ年には名古屋港水族館も開館し、9年後にはイルカやシャチの屋外水槽が完成して、世界最大級の施設になります。1994（平成6）年には、第49回国民体育開会（わかしゃち国体）が開催されました。

しかし、翌平成7年には1月に阪神・淡路大震災が発生し、3月にはオウム真理教信者による地下鉄サリン事件が日本に暗い影を落とします。バブルが崩壊し企業の倒産が続く中、1997（平成9）年には消費税が5%に引き上げられました。

そんな中、1999（平成11）年、愛知県の人口は700万人を超えました。翌2000（平成12）年には、伊勢湾台風以来の水害、東海豪雨が起こります。

2002（平成14）年に日韓ワールドカップが開催されるなど、グローバル社会が広まっていく中で、愛知県も2005（平成17）年に中部国際空港（セントレア）を開港、小牧の名古屋空港は県営施設となり、初の磁気浮上式鉄道（リニアモーターカー）による東部丘陵線「リニモ」も開業します。そしてこの年、満を持して日本国際博覧会（愛知万博／愛・地球博）が開催されたのです。



2005年日本国際博覧会の長久手会場

愛知青少年公園だった万博の長久手会場は、翌年、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）として開園します。この時、万博の人気展示物だったスタジオジブリの「サツキとメイの家」がそのまま残り、のちのジブリパークに生かされていくことになります。

リーマンショックから2年後の2010（平成22）年には、あいちトリエンナーレの初開催と、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10あいち・なごや）の開催があり、2011年の東日本大震災を経て、2012（平成24）年には、第67回冬季国体スケート・アイスホッケー競技会や名古屋ウィメンズマラソンの初開催がありました。



第1回名古屋ウィメンズマラソンのスタートの様子
写真提供：名古屋ウィメンズマラソン

2014（平成26）年には、持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議が開催され、第52回技能五輪全国大会・第35回全国障害者技能競技大会（技能五輪・アビリンピックあいち大会2014）が開催されました。実は、ものづくりが盛んな愛知県はこの分野の常勝県であり、愛知県選手団は直近2021年の東京大会で、技能五輪全国大会で17年連続の最優秀技能選手団賞を獲得し、全国アビリンピックでも17大会連続金メダル獲得という輝かしい記録を打ち立てています。

また、この年、愛知県庁本庁舎・名古屋市役所本庁舎が国の重要文化財に指定され、リニア中央新幹線が着工しました。2年後の2016(平成28)年に愛知県の人口は750万人を超え、翌年には県営名古屋空港に隣接して、あいち航空ミュージアムが開館しました。

◆令和から未来へ向けて

2019年4月1日に、平成に代わる新元号「令和」が公表され、翌月5月1日より改元されました。天皇陛下は上皇となられ、皇太子の徳仁親王がご即位されました。この年の第70回全国植樹祭は、6月2日に愛知県で行われ、天皇、皇后両陛下にとっては初めての地方訪問となり、注目を集めました。



第70回全国植樹祭での天皇皇后両陛下による「お手植え」「お手まき」の御様子

同じ年、セントレア空港島に愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)が開業しました。さっそく第57回技能五輪全国大会・第39回全国障害者技能競技大会(あいち技能五輪・アビリンピック2019)が開催されました。



愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)

この年には、ラグビーワールドカップが日本で開催され、愛知県でも豊田スタジアムが会場となって大いに盛り上がりました。

しかし、翌2020(令和2)年は、新型コロナウイルス(COVID19)が全世界に猛威を振る

い、会合、会食、旅行、イベント、ほとんど全ての人間活動が制約を受け、海外はもちろん、地域交流もままならない日々が今も続いています。そんな中で、2021(令和3)年には、1年の延期ののちに、東京で2度目のオリンピック・パラリンピックが無観客開催され、翌2022(令和4)年には北京で、同じく冬季オリンピックが無観客開催となりました。

同じ2021年1月の冬季国体スケート、アイスホッケー競技会「夢!きらリンク愛知国体」も緊急事態宣言下であり、残念ながら無観客開催となりました。一方、World Robot Summit2020愛知大会及びロボカップアジアパシフィック2021あいちは、緊急事態宣言明けの11月下旬開催で、コロナ対策と折り合いながら楽しむ家族連れの姿が見られました。

愛つなく。
知ひらく。

愛知県政150周年のテーマは『愛つなく。知ひらく。』

愛知県では記念事業として、

1. ジブリパーク
2. 国際芸術祭「あいち2022」
3. STATION Ai
4. 愛知県新体育館
5. 愛知県基幹的広域防災拠点
6. 愛知県畜産総合センター種鶏場

の6つのプロジェクトに取り組んでいかれるそうです。

愛知県建築技術研究会も、郷土愛知の発展のために、今後とも尽力して参りたいと存じます。

参考：愛知県政150周年記念 Web サイト

<https://150.pref.aichi.jp/>



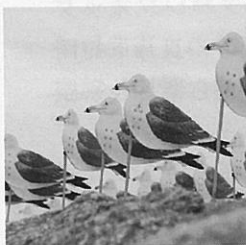
県政150周年記念

「わたしの大好き!な愛知」

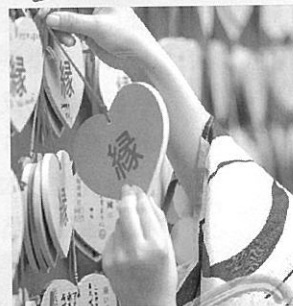
写真を募集します!

募集テーマ

「わたしの大好き!な愛知」



愛知で遊んだ!愛知で感動した!愛知で食べた!...
みんなに伝えたい、見せたい、「わたしの大好き!な愛知」を投稿して、
愛知の魅力を世界に発信しよう!



1872年(明治5年)11月27日に、名古屋県から改称した当時の愛知県と額田県が合併して、現在の「愛知県」が誕生しました。2022年は、「愛知県政150周年」の節目に当たります。

この節目の年を県民の皆様と盛り上げていくとともに、皆様に、愛知の歴史を振り返り、また、愛知の魅力を再発見していただくため、皆様の「わたしの大好き!な愛知」のワンシーンをInstagramで大募集します。

応募締め切り

2022年
9月30日(金)

応募いただいた写真は県政150周年記念WEBサイトに掲載させていただきます!

応募写真の一部を

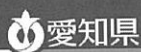
県政150周年記念式典の
オープニング演出
(堤幸彦監督による監修)に
活用させていただきます!



また、オープニング映像に活用させていただいた写真の応募者の中から
抽選で10名様

スタジオジブリのプロデューサー、鈴木敏夫氏が描いた、
愛知県政150周年ロゴマークキャラクター
「いこまいまい」「あいちゅん」の
ぬいぐるみ(いずれかひとつ)をプレゼント!

※ぬいぐるみの種類は選べません



愛知県政策企画局 企画調整部企画課
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
TEL:052-954-6088(ダイヤルイン)

応募方法の詳細はこちら

わたしの大好き!な愛知 検索

公式HP: <https://150.pref.aichi.jp/myaichi/>



「愛知まちなみ建築賞」作品募集について

愛知県では、良好なまちなみ景観の形成や、潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物、または、まちなみを表彰します。

「第30回愛知まちなみ建築賞」の作品を下記のとおり募集しています。

1 応募対象

次の条件に該当するもの

- ①愛知県内で、2017.4.1から2022.8.20までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
- ②建築基準法及び人にやさしい街づくりの推進に関する条例に適合し、当条例の適合証が交付されていること。



(詳細は「愛知まちなみ建築賞」WEBページ参照)

2 選考基準

- ①地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。
- ②地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。
- ③魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。
- ④その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

3 応募資格

資格は、特に問いません。



4 応募方法

「愛知まちなみ建築賞」WEBページより、応募用紙をダウンロードして、必要事項を記入し、写真(4枚程度)を添付して、下記事務局あてに郵送又は電子メールでお送りください。

5 応募期間

2022年7月1日(金)から

2022年8月20日(土)まで

(郵送の場合は当日消印有効・電子メールの場合は当日着信有効)

6 賞

愛知まちなみ建築賞 数点

(特に優れた作品については、「愛知まちなみ建築賞大賞」を選考します。また愛知まちなみ建築賞選考委員会で特に必要があると認めた場合は、「愛知まちなみ建築賞特別賞」を選考します。)

7 発表・表彰

審査結果は2023年1月頃に発表し、表彰を行います。

愛知県都市・交通局都市基盤部公園緑地課
「愛知まちなみ建築賞」事務局

住所 〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6612 (ダイヤルイン)

E-mail koen@pref.aichi.lg.jp

応急危険度判定士講習会のご案内

主催〔愛知県建築物地震対策推進協議会、愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市〕

愛知県では、大規模地震発生直後に、被災した建物を調査し、その危険性を判定するボランティア（「応急危険度判定士」）を1995年度から養成しています。

2022年度は下記のとおり、講習会を開催しますので、この機会に応急危険度判定技術

を取得して「応急危険度判定士」として登録していただきますよう御案内します。なお、**更新時の講習会受講は免除**されておりますので、今年度更新が必要となる2017（平成29）年度登録者（登録番号：290-000）は、**別途案内されます更新登録申請書の提出のみで更新**できます。

■日時・場所

開催日時	会場	定員
9月7日（水） 午後1時～午後3時30分まで	伏見ライフプラザ鯉城ホール（駐車場無） 住所：名古屋市中区栄一丁目23番13号	360名
9月15日（木） 午後1時～午後3時30分まで	愛知県西三河総合庁舎大会議室（駐車場無） 住所：岡崎市明大寺本町1-4	110名
9月22日（木） 午後1時～午後3時30分まで	伏見ライフプラザ鯉城ホール（駐車場無） 住所：名古屋市中区栄一丁目23番13号	360名
9月28日（水） 午後1時～午後3時30分まで	豊橋市役所 講堂（駐車場無） 住所：豊橋市今橋町1	90名
10月6日（木） 午後1時～午後3時30分まで	伏見ライフプラザ鯉城ホール（駐車場無） 住所：名古屋市中区栄一丁目23番13号	360名
10月20日（木） 午後1時～午後3時30分まで	愛知県西三河総合庁舎大会議室（駐車場無） 住所：岡崎市明大寺本町1-4	110名

各回とも感染拡大防止対策のため、募集定員は各会場の収容人数の半分に限定させていただきます

- ・**受講資格**
 - 1 愛知県内の地方公共団体職員（応急危険度判定業務に従事する必要のある者）
 - 2 愛知県内在住又は在勤の建築士（1級・2級・木造）、1級建築施工管理技士
2の方は9月15日（木）の講習会をオンライン受講することも可能です。（定員50名）
- ・**受講料** 無料
- ・**申込方法**
 - 1 Webサイトによる申込方法：7月1日（金）から各開催日の募集終了まで（先着順）
愛知県建築物地震対策推進協議会ホームページ「News お知らせ」欄より
→ <http://www.aichi-jishin.jp/>
 - 2 郵送又はファクシミリによる申込方法：（オンライン受講はWebサイトのみ）（先着順）
下記の受講申込書に必要事項を記入の上、申込先あてに郵送かファクシミリにてお申し込みください。申込者には、開催日の1週間程度前までに受講票を送付いたします。（定員により第1希望で受講できない場合があります。）
- ・**問合せ先** 事務局（一財）愛知県建築住宅センター
（申込先） 〒460-0008 名古屋市中区栄4-3-26 昭和ビル2F TEL052-264-4022 / FAX052-264-4041

（コピーしてお使い下さい）

応急危険度判定士講習会受講 申込書

（一財）愛知県建築住宅センター FAX052-264-4041

フリガナ		勤務先				
氏名						
		部 課 名				
資格（該当すべてに○を付ける）		1級建築士 2級建築士 木造建築士 1級建築施工管理技士 地方公共団体職員				
受講票送付先	<input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> 自宅	住所 〒	—			
		電話番号	—			
希望日	9/7（水） [名古屋会場]	9/15（木） [岡崎会場]	9/22（木） [名古屋会場]	9/28（水） [豊橋会場]	10/6（木） [名古屋会場]	10/20（木） [岡崎会場]
第1希望○、第2希望○						

編集後記

日頃より、当研究会にご支援・ご協力をいただき、ありがとうございます。
さて、つちおとNo.142号は『愛知県政150周年特別号』と銘打ってお送りいたしました。県政150周年には、愛知県建築技術研究会も、ささやかながら協力団体として登録・参加しております。愛知県政150周年記念 Web サイト <https://150.pref.aichi.jp/> にも、掲載していただきました。ぜひご覧ください。

引き続き、愛知県建築技術研究会では、会員様の体験記や書籍紹介、支部の活動や地域の情報、また絵画や写真等の投稿をお待ちしております。特に、「建物探訪」としてご紹介できるような地域の建築をご紹介いただければ幸いです。

皆さんで一緒に「つちおと」を作っていきたいと思っております。よろしくお願いたします。



つちおと
No.142 2022 総会号

編集 企画総務委員会

担当役員 伊藤 慎一
委員長 和田 光男
副委員長 中島 清
委員 小澤 高之 河原 達政
遠藤 彰一 甲村 武文
石橋 克泰 林 雅彦

発行日 令和4年7月25日

発行所 愛知県建築技術研究会

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目19-30
愛知県住宅供給公社ビル3階
TEL (052)955-1107 FAX (052)955-1127
e-mail aikengi@deluxe.ocn.ne.jp
URL <http://www.kengiken.sakura.ne.jp>

印刷所 株式会社 ワコーヴィスコム

〒462-0851 名古屋市北区木津根町61番地
URL <https://www.wako-viscom.co.jp>

表紙の題字

桑原幹根 元愛知県知事書



会旗・シンボルマーク

会旗・シンボルマークは、当会会員に公募し、豊田建設工業 伊藤とも子さんの作品です。
愛知県の(A)・建築技術(G)・研究会(K)をミックスデザインしたもので、2本の鋭い柱のうち1本は建物と、斜に延びた1本はタワークレーンを表し、(K)の曲面はブルドーザーを表現したものであります。